

# 紀尾井だより

1/2 January / February 2022 [Vol.151]

紀尾井レジデント・シリーズ  
葵トリオ・川口成彦

紀尾井たっぷり名曲4 義太夫  
伊賀越道中双六 岡崎の段

連載

邦楽名曲解体新書 私のおすすめこの一曲  
清元節『青海波』

special

ライナー・ホーネック  
スペシャル・インタビュー

紀尾井町音楽散歩 第5回  
赤坂の夜は更けて



# 紀尾井レジデント・シリーズ

## 葵トリオ 川口成彦



取材・執筆／正木裕美（音楽ジャーナリスト）

紀尾井ホールを舞台に、若手ベテラン問わず話題のアーティストが創造力を発揮する新企画「紀尾井レジデント・シリーズ」がいよいよ始動する。一期一会の公演もよいけれど、同じホールでじっくりとアーティストやジャンルの魅力を掘り下げたい——そんな期待に応えるべく、このシリーズでは3年にわたってひとり、もしくは一団体がそれぞれ年に一度のリサイタルを行い、その都度違う切り口で自身の魅力を発信していく。創造性豊かなアーティストによるクリエイティブな場は、きっと私たちの知的好奇心をも満たしてくれるはずだ。

その第1弾は、かのミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門で日本人団体として初の優勝を果たした葵トリオ（22年3月16日）。現在はベルリンに拠点を置き、ミュンヘン音楽演劇大学で研鑽を積み



© Nikolaj Lund

ながら日欧各地で演奏活動を行っている。若き才能溢れる彼らに、トップバッターとしての意気込みを語ってもらった。

——シリーズの軸はシューマンです。彼が保守的な芸術観に対して作り出した架空の「ダヴィッド同盟」と化して、ロマン派のみならず意欲的なプログラムを組まれていますね。

伊東 1回きりではなく3公演を通して打ち出せることに意味があると考え、シューマンに焦点をあてて周辺の作曲家やシューマンを好きだった近現代の作曲家を取り上げました。皆さんご存知のとおり、初回のリームの《見知らぬ土地の情景Ⅲ》にはシューマンのピアノ・トリオのモチーフが引用されています。またミュンヘンのコンクールを受けた際に課題曲だったため、再び弾いてみたいと思いました。



© ヒダキトモコ

——葵トリオさんの結成のきっかけは？またレジデント・シリーズへの意気込みをお聞かせください。

小川 2016年に初めて芸大（東京芸術大学）の授業でトリオを組み、亡くなられた岡山潔先生から学外で演奏会の機会を頂いたのがきっかけです。「3人も違う良さがあるけれども室内乐的にすごくバランスが良いんですよ」って応援してくださったことが、今でも自分の中でひとつ大きな支えになっています。

今回のシリーズでは初めて3年という長いスパンでプログラムを組ませてもらえて、大変光栄な気持ちです。ピアノ・トリオの世界観やよさを存分にお伝えできるプログラムが組めたので、精力的に取り組みたいと思います。





秋元孝介 (ピアノ) 小川響子 (ヴァイオリン) 伊東裕 (チェロ)

—— シリーズを通して伝えたいピアノ・トリオの魅力とは？

**秋元** 一番わかりやすい魅力は、ソリスティックな面とアンサンブル面の両方を楽しめる点かと思います。メロディも3人で受け継ぎながら、一瞬伴奏にまわって内声弾いて、またメロディを受け持つ。それぞれの楽器の振る舞いがより自由なので、楽器のよさがより出てくるし課せられる役割もたくさんあります。

また今回のリームだったり、ショパン(第2回)やクララ・シューマン(第3回)だったり、マイナーなピアノ・トリオの作品は演奏機会がそれ程多くありません。常設のピアノ・トリオとして取り組んでいる私たちだからこそ、ジャンルを盛り上げた——さらに室内楽の裾野を広げ、興味を持っていただけるように、曲のセレクトを工夫するのも僕らの役目かなと思っています。

そしてシリーズ第2弾は、ショパン国際ピアノ祭器コンクールで第2位に入賞後押しも押されぬ人気を誇る川口成彦。時代や音色の異なるさまざまなフォルテピアノを鮮やかに操る川口は、そのプログラミングにも定評がある。古楽器の枠にとらわれない新鮮な取り組みで、次はどんな世界を見せてくれるのだろうか。全3回の全容も気になるのだが、まずは4月6日に開催されるシリーズ初回について話を聞いた。

—— 初回のコンセプトは「プロムナード with エラー(1890年)」です。19世紀の作品をエラーの楽器と「散歩する」ようなイメージですか？

後半に演奏するムソルグスキー《展覧会の絵》の「プロムナード」とも掛けています。実は僕はグリーグが中学生の頃から大好きなんです。その割に演奏会ではしつかり取り上げたことがなく、《ホルベルク組曲》(別名《ホルベアの時代から》)とピアノ・ソナタを今回弾くことがとても楽しみです。そのグリーグへと続く冒頭はこのホルベア(18世紀前半に活躍した作家、歴史家)の時代に想いを寄せてバッハの



川口成彦 © ヒダキトモコ

《主よ、人の望みの喜びよ》(ヘス編曲)を持ってきました。後半の《展覧会の絵》のような19世紀後半以降のロシアの作品の古楽器演奏はとても新しい分野で、自分にとっても新鮮な取り組みとなります。

—— グリーグもエラーのフォルテピアノを使用していたのでしょうか？

使用する1890年製のエラーはグリーグ、チャイコフスキー、ムソルグスキーが生きていた時代の楽器です。それからバッハの編曲者ヘスの誕生日と同じです。グリーグが愛用したピアノとしてトロールハウゲンの家を使っていた1892年のスタインウェイがあります。でも例えば留学先のライプツィヒではシュトライヒャーに、またパリを訪れた際には絶対ブレイエルやエラーに触れていると思います。エラー社はハンマー機構の開発においてスタインウェイなど近代に向かうピアノに大きく影響を与えたメーカーなんです。だから僕はグリーグにしろ今回の他の作曲家にしろ、エラーのピアノで演奏してみることがとても面白いと思います。

ただ、あまり楽器のメーカーと作曲家を厳格に結び付けてはいけないと思っていて、そう考えるきっかけとなったのが、マーラーが若い頃に1820年代のシュベルトの時代の楽器を所有していたという事例です。19世紀はヨーロッパのどこかのホールに行ったらまだシュベルトの時代の楽器が置いてあったかもしれないし、ピアノ

の多様性がヨーロッパ全土にもものすごく溢れていたんだと思うんですね。このシリーズでは毎回ピアノを変えるので、ピアノという楽器の多様性や楽器ごとの個性も楽しんでいただきたいと思います。

2回目以降はソロのみならずアンサンブルも視野に入れ、フォルテピアノの魅力にあらゆる切り口で迫ると。「あ、今日の楽器何なんだろう？ つていうわくわくを大切にしたい」という意向から、公演ごとに使用楽器が異なることにも要注目。個々の楽器との新たな出会いを楽しみつつ、ホルルの豊かな音響による響きの違いもぜひ聴き比べてほしい。

### 紀尾井レジデント・シリーズ I

#### 葵トリオ (第1回)

葵トリオとシューマン (『ダヴィッド同盟』新音楽時報)

リーム : 見知らぬ土地の情景Ⅲ  
シューマン : ピアノ三重奏曲第1番二短調 op.63  
シューベルト : ピアノ三重奏曲第1番変ロ長調 D898

3/16  
水  
19:00

### 紀尾井レジデント・シリーズ II

#### 川口成彦 (第1回)

フォルテピアノの魅力「プロムナード~with エラー(1890年)」

バッハ : 主よ、人の望みの喜びよ(M.ヘス編曲)  
グリーグ : ホルベルク組曲 op.40  
グリーグ : ピアノ・ソナタ ホ短調 op.7  
チャイコフスキー : 哀歌 op.72-14  
ムソルグスキー : 展覧会の絵

4/6  
水  
19:00

※公演開催についての最新情報は  
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。



## 竹本千歳太夫

## 豊澤富助

名曲は何故名曲なのか？何度聴いてもまた聴きたい。何度演奏してもまた演奏したい。そう思わせる作品には理由があります。文楽屈指といわれる大曲に挑むのは、竹本千歳太夫×豊澤富助のお二人。意気込みを伺いました。

## 伊賀越道中双六 岡崎の段

岡山藩士 渡辺数馬（伊賀越では志津馬）と姉のお谷の婿 荒木又右衛門（政右衛門）らによる伊賀の仇討を題材とした浄瑠璃です。

「岡崎の段」が名曲といわれる点は？

**富助**（以下富） この曲はとにかく長い。名曲：ですが難曲です。90分ほどあるのですが、まず枕（段の冒頭部分）が難しい。気が抜けないのです。

**千歳太夫**（以下千） 最初から政右衛門の立ち回りで激しい場面が続くし、お谷は出たら出たで、癪に苦しんでいるし。あと全体を通して敵を追い求めているわけですから、その緊張感の上に話の流れがあるので、最終的には子供を殺すことになるので、段全体を通してはんなりする場面がない、甘いところがない。「洪く、縮まった語り口」で緊張が続きます。なかなかやつかいですね。

**富** 三味線は、例えば、雪深い様を描写しなくてはいけませんが、雪の上を踏み締めて歩く男の足取り、同じ雪でも凍えて寒い雰囲気と、寒さでも場面場面で違う表現なので少し気を使っています。また、段切れ（段の終わり）では調子があります。ここまで長時間やったあとで、さらに全力疾走。

**千** その段切れの最後が馬子を切るのがまた、ぱっと激しい感じで終わるので、油断はできない。

**富** 通常は段切れつて少しはんなりして終わるのに、岡崎は違う。おまけが付いている。

**千** いいんじゃないか、もう。と（笑）  
**富** まだある、と（笑）

特に注目してほしい場面は？

**富** さきほどの枕の部分、それからお谷の出、政右衛門のわが子殺し、でしょうか。話が複雑に感じられると思いますので、公演前半に児玉先生による解説があるのは嬉しいですよ。

**千** 事前に勉強しておく、その面白さや奥深さが断然わかってくるのが義太夫。残念ながらやつぱりいきなり何も知らないで聴いてしまうと、難しいと思ってしまうと思います。ちょっとでも岡崎の段のことを知ってから、来てもらえると嬉しい。

素浄瑠璃で演奏するということ

**富** 岡崎の段は、文楽公演では上演はままあるのです。録音でも豊竹山城少掾などは残っているのですが、現代になつての素浄瑠璃公演は、そう無い。文楽公演では人形がメインなので、太棹三味線方は糸を締めたり、調弦したりする時、それほど緊張せずにやっていますが、素浄瑠璃はそうはいかない。全てが注目されている！それはいい緊張感にもなります。

**千** 太夫は、語り始めてしまえば、その世界にどっぷり入りきってしまいますね。

公演に向けて

**富** もう本当になかなかない機会だと思えます。人生でそう何度も素浄瑠璃で岡崎の段をやることは無いでしょう。敢えて「お勉強」と言いますが、更なる高みを目指してお勉強させてもらいます！

**千** どうぞ、最後までお付き合いくださいね。



竹本千歳太夫(左) 豊澤富助(右)

紀尾井だより名曲4 義太夫

伊賀越道中双六

岡崎の段

竹本千歳太夫

×

豊澤富助

2/27  
日  
14:00

1/6(木) 発売



## 私のおすすめの一曲

## 清元節

せいはいは

## 『青海波』

お話／清元雄二郎さん

## 日本各地の海の美しい情景

清元でおすすめの曲は『青海波』です。伝統紋様でお馴染みですが、雅楽や清元にも同名の曲があり、御祝儀物として演



奏されています。清元の『青海波』は明治三〇年（一八九七）、五世清元延寿太夫の襲名披露曲として作曲されました。初世の紋が青海波だったことからこの曲名がつけられたそうです。

曲の内容は、東北から西国へ、日本各地の海の名所を美しく語っています。初めは陸奥の塩釜、松島。そして筑波、富士、天橋立、播磨瀧、明石、淡路へ。季節も春夏秋冬と巡り行き、旅するように美しい情景が次々と現れます。その情景描写にあたって三味線の役割がとても大きく、演奏するのが難しい。だから私はこの曲が嫌いです（笑）。でも聴く分には大好きな曲なので、今回挙げさせていただきますました。

義太夫・常磐津など数ある三味線音楽の中でも、清元は江戸時代後期に生まれた歴史の浅い音楽です。そのため清元の曲の多くはそれ以前に成立していた三味線音楽の曲を取り入れたものですが、『青海波』は純粋に清元の曲として新作されたものなので、演奏する側の腕が試されているように思います。上手な演奏を聴いて「自分もあんなふうに演奏ができたらいいな」と思いますが、なかなかできないいからどかしいですね。もちろん、浄瑠璃なので太夫を引き立てることが三味線の一番の仕事。野球のキャッチャーのような存在なのかもしれませんが、このグラウンドを支えているのは俺

だという気持ちで、太夫にいかによい声で語ってもらうかを考えながら弾いています。

## 演奏の難しさを乗り越えたい

この曲に出会ったのは東京藝大の学生時代です。最初は『お祭り』や『玉屋』など清元の代表曲を習って三味線の手を修得していくのですが、『青海波』を初めて聞いた時の感想は「なんだ、これは!?」でした。今までのパターンではないな、と。調子が三回も変わるし、独特の旋律なんです。

それからもう何度も弾いてきましたし、日本舞踊のおさらい会などで演奏を頼まれることも度々ですが、いまだに満足いく達成感を味わうに至りません。聴いていてよい曲だからこそ、何とかその境地に辿り着きたいと思っています。先ほど「嫌い」なんて言ってしまいました。この心境は音楽に限らず、どの分野のプロも直面していることかもしれません。スポーツ選手も、そのスポーツが好きという一方で、練習の辛さや結果を出せない苦しみがある。それをどう乗り越えていくかということですよ。

演奏で特に難しいのは、「月の名所は」と三下がり（※）の調子に変わるところ。清元の曲は変調が少ないので、演奏する側としては苦手な部分ですが、情景と

しては美しい場面です。三味線の音色はとても穏やかになり、「ヤサホウエンヤ」という舟唄の囃子詞が入ります。私が弾きながらイメージするのは、薄暗い静かな砂浜。波の上に月が照っている情景です。この情景をお客様の頭に浮かべることができたら大成功だと思います。

※基本となる「本調子」から、

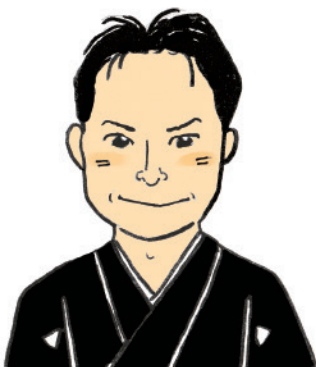
「三の糸（第三弦）」を一音下げる調弦法

取材：文・イラスト／尾花 知美

（月刊『江戸楽』編集部）

## 清元雄二郎

昭和六十二年清元志佐雄太夫に入門。平成元年清元雄二郎の名前を許される。同年新橋演舞場にて初舞台。同四年清元榮三郎に師事。同五年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同十三年より「清元座SHINKA」に参加。同二十七年清元集団「きよるり座」同人として活動。同二十九年歌舞伎座團菊祭にて立三味線をつとめる。同三十年企画演奏会プロジェクト「雄亭 YUITEI」発足。藤間流・藤盛会各支部講習会にて清元を担当。



# ライナー・ホーネック スペンシャル・インタヴュー

2017年度より紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)第2代首席指揮者として活躍し、毎回馥郁たるウィーンの香りを私たちに届けてくれたライナー・ホーネック。いよいよ来る2月の定期演奏会が、このポストでの最後のコンサートとなります。実り豊かだった5年間をホーネック氏に振り返っていただきました。

——この5年間、KCOとはどのように過ご  
し、いかなる成果をもたらしたと思  
いますか？

本当に実りある共同作業でした。素晴らしいプログラムで美しいコンサートができましたし、観客も素晴らしかったです。当初の私の目標は、ウィーンの伝統的な奏法、特に古典派のレパートリーにおける様式、サウンド、アーティキュレーション、フレージングなどを伝えることでした。私としては成功したと思っておりますが、実際には、このオーケストラの長年のファンである多くの聴衆の皆さんが判断されることです。

——KCOとの演奏の中で、最も印象に残っているものを教えてください。

たくさんありますが、中でもベートーヴェンの弦楽四重奏曲作品131の弦楽オーケストラ・ヴァージョンでの演奏ですね。

——この度のパンデミックでは、長い間公演  
ができませんでした。

すべてがストップした当初は、長年の忙しいスケジュールから解放されて家族との自由な時間をとても楽しんでいました。しかししばらくすると、皆と一緒に演奏することが本心に恋しくなりました。今では私も同僚も皆、人生を違った角度から見るようになり、自分たちが音楽や芸術の一部でいられることを大切にしています。

——KCOの今後の課題は何ですか？

世界中でクラシック音楽シーンは財政的な削減に直面していますが、これまでの方針を維持することが重要です。そして新しい聴衆を増やすために、冒険的に面白いプログラムを作っていくかなければなりません。また、コンサートの数を増やすべきです。これほどレベルの高いアンサン



© ヒダキトモコ

ブルが継続的に進歩するためには、頻繁に一緒に仕事をするのが肝要です。

——今後は名誉指揮者となられますが、KCOにどのようなことを期待していますか？

これからどのように発展していくのかを見守りたいと思います。時折、一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

——首席指揮者としてKCOのメンバーや観客、ファンにメッセージをお願いします。

観客の皆様へ

2月にKCOの首席指揮者として最後のコンサートを行います。この5年間だけでなく、その前から、私はこのオーケストラと共に仕事をするをとても楽しんできました。KCOとはたくさんの美しい演奏の思い出があります。また、KCO

紀尾井ホール室内管弦楽団

第129回定期演奏会  
「ライナー・ホーネック 首席指揮者任期最終回」

ライナー・ホーネック (指揮・ヴァイオリン)  
オリヴィエ・スタンキエーヴィチ (オーボエ)

パッサ : ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲ハ短調 BWV1060R  
モーツァルト : 交響曲第36番ハ長調〈リンツ〉K.425  
R. シュトラウス : オーボエ協奏曲二長調 AV144, TrV292  
ベートーヴェン : 交響曲第2番二長調 op.36

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

2022  
2/11  
金祝  
18:00  
2022  
2/12  
土  
14:00

のメンバーが音楽づくりに多大なエネルギーと努力を注いでいる姿は、私にとっていつも刺激的でした。  
KCOとの演奏では、技術的な完成度を追究するだけでなく、私が40年間にわたってウィーン・フィルで演奏することで得られたウィーンの音楽の伝統を味わえるようにしたいと常に考えています。  
皆さまには私たちのコンサートの一員となつて、オーケストラをサポートしていただき、心から感謝いたします。



10.5(火)・6(水) 朗読と組踊 琉球楽劇の創始者 玉城朝薫が紡いだ歌舞

沖縄伝統芸能「組踊」の創始者・玉城朝薫の軌跡を、第一部では沖縄言葉の朗読劇+琉球古典音楽、第二部では「執心鐘入」「二童敵討」の組踊を上演。いにしへの沖縄へと誘いました。



本公演は、日経アートアカデミアにて全編有料配信中心!



10.13(水) A.ランゲ&ゾーネ presents ペーター・レーゼル フェアウェル・リサイタル

アンケートより

名匠レーゼルの演奏が素晴らしい。聴衆も総立ちで拍手を送るほどでした。「音色」という宝石が、ピアノからこぼれ落ちるような錯覚を覚えます。



紀尾井 友の会ファイナル・イベント〈1〉

イベントレポート

ペーター・レーゼルのピアノ・サロンにようこそ

10月11日(月)に、ドイツピアノニズムの巨匠、ペーター・レーゼル氏を迎えて、トーク&ピアノサロンを開催しました。事前に寄せられた質問へのお答えに加え、学生時代にソ連へ留学した話や、現在のドイツでの暮らし、ピアニストを目指す若い人々への激励メッセージなど盛り沢山のトークタイムとなりました。演奏は、ラフマニノフ《楽興の時》より第5番とモーツァルト「ピアノ・ソナタ第11番(トルコ行進曲付き)」の二曲をお楽しみいただきました。

2022年3月にファイナル・イベント〈2〉を開催予定です。お楽しみに!



バックウクレリネット

日本輸入総代理店  
ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京

ドルチェ楽器は、お客様と「新しい音」が出会うため、「楽器の提供」はもちろん、楽器修理、音楽教室の展開、そして、「年間を通じたコンサート」も開催しております。確かなものを心ゆくまで。私たちは、皆様のご来店を心よりお待ちしております。



ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-13-12-8F  
Tel: 03-5909-1771 <https://www.dolce.co.jp>  
11:00~19:00木曜定休(祝祭日は営業) 新宿駅西口徒歩4分

表紙を飾りました!

編集後記

2017年度より紀尾井ホール室内管弦楽団の首席指揮者を務めるライナー・ホーネック氏が、いよいよ2022年3月をもって退任となります。そこで就任から現在までの名場面などを振り返りながら紀尾井での思い出など語っていただきました。ホーネック氏のウィーンで培った真摯な音楽愛が感じられるインタビューでした。

今号の表紙

『クラリネットとクリスマスローズ』

[協力] 花/hanadouraku クラリネット/株式会社ドルチェ楽器

クラリネットはオーケストラではソロ的な役割をはずすとともに、木管パートの中間音域を受け持ち、吹奏楽ではトランペットとともに主役をつとめる楽器です。クリスマスローズは冬から早春の時期に花を咲かせる数少ない花だそうです。静かな寒い時期の庭に彩りを与えてくれるところは、クラリネットのソロ演奏を連想させますね。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

- 《特別協賛会員》 A.ランゲ&ゾーネ/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所  
 《みやび会員》 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社  
 《ひびき会員》 オカムラ/きらぼし銀行/高砂熱学工業/竹中工務店/山下設計  
 《みどり会員》 青鬼運送/赤坂維新號/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武プロパティーズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士フィルムビジネスイノベーションジャパン/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/有帆  
 《おおい会員》 青木陽介/浅見 恵/足立友子/石崎智代/磯部治生/井上善雄/植竹浩樹/太田清史/大武和夫/片山能輔/久保祐子/栗山信子/佐久間庸行/佐伯いく子/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/鈴木 亮/高下謙吾/武上由佳/田中 進/外山雄三/鳥居狂太/中塚一雄/中西達郎/中村健司/西村剌美/原田清朗/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/簗輪永世/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿実/吉峯裕毅  
 ほか匿名23名 計148口

(2021年12月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

- アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/丸築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/(旧)日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業  
 日本製鉄 (2020年度、匿名一社除く)





ニューラテンクォーターの跡地には地上38階の超高層ビルが建っている

## 紀尾井町音楽散歩 [第5回] >> 赤坂の夜は更けて

今回は紀尾井町のお隣、港区・赤坂界隈の音楽散歩です。赤坂はその名の通り、町内に低地と高台が混在する坂の多い町で、高台には武家屋敷や旗本、御家人諸家の屋敷が、また現在の外堀通り沿いの低地には庶民の家々が立ち並んでいました。明治期になり、高台は新政府高官や軍人たちの屋敷、軍隊の施設へと生まれ変わる一方、低地には風光明媚な溜池沿いに茶屋や料理屋が点在するようになります。赤坂の東側には永田町があり、政治家や軍人らがこれらの店を接待に頻りに利用するようになり、赤坂花柳界のもとになったといわれています。その後赤坂は東京でも屈指の花街として、昭和の高度経済成長期には数百人もの芸者が籍を置き、栄華を誇りました。中でも1949年からほぼ毎年続いている「赤坂をどり」は、芸者たちが年に一度、その腕前を披露する場となっており、艶やかな衣裳や華麗な舞いを観ることがができる赤坂の風物詩です。

高度経済成長期にもうひとつ、赤坂の発展を象徴したのが数々のキャバレーやクラブです。中でも伝説として語り継がれているのが、現在のプルデンシャルタワーの地階にあった「ニューラテンクォーター」です。各界の名士たちが集い隆盛を極めたナイトクラブで、アメリカのラスベガスさながらの華麗なショーを開催し、社会に多くの話題を提供しました。ステージにはジャズの巨匠

レイ・アームストロングやナット・キング・コール、ポップスの女王ダイアナ・ロス、また、美空ひばりや森進一、西城秀樹らが登場。限られた者だけが体験できる、贅沢な夜の社交場でした。

さて、この「ニューラテンクォーター」から歩いて10分ほど、薬研坂沿いにある高層マンション パークコート赤坂ザタワーには、かつてレコード会社の日本コロムビア旧本社とレコーディングスタジオが建っていました。旧本社は、昭和歌謡が隆盛を極めた1965年から40年間この地にあり、「ニューラテンクォーター」にも出演した“女王”美空ひばりを筆頭に、多くの有名歌手が所属。旧本社のエントランスには所属アーティストが獲得した「日本レコード大賞」をはじめとするトロフィーや表彰盾が飾られていました。現在、旧本社沿いの小道は「コロムビア通り」と呼ばれ、この地にその名を残しています。また、旧本社から歩いて3分ほどのところには「日本レコード大賞」を毎年末に放送しているTBSがあることから、赤坂のいたるところに音楽や芸能の歴史が息づいていると言えるでしょう。

<K>



公式SNSで最新情報配信中



紀尾井ホール



紀尾井ホール  
室内管弦楽団

紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

※紀尾井ホールチケットセンターの電話受付は2021年3月31日をもって終了いたしました。

